京都あぐり便り

宇治田原町・正寿院「風鈴まつり」

近畿農政局京都支局
発行：令和2年8月28日

もくじ

Ｐ１・・令和元年度食料自給率・食料自給力指標が公表されました
Ｐ２・・植物検疫が切手のデザインに！ ／ 令和2年秋の農作業安全確認運動
Ｐ３・・現場だより「日本一のまくわうり産地をつくりたい！ 上田 潤さん（亀岡市）」
Ｐ４・・新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします

令和元年度食料自給率・食料自給力指標が公表されました

食料自給率とは、国内の食料供給に対する食料の国内生産の割合を示す指標です。我が国の食料の国内生産及び消費の動向を把握するため、毎年公表しています。
食料自給力指標とは、国内生産のみでどれだけの食料を最大限生産することが可能かを試算した指標です。我が国の食料の潜在生産能力の動向を把握するため、平成27年から公表しています。

○カロリーベース食料自給率

令和元年度においては、サンマ・サバ等の魚介類が不漁となり、米消費が減少した一方で、小麦の単収が増加したこと等により、対前年度から1ポイント上昇の38%となりました。

○生産額ベース食料自給率

生産額ベースの食料自給率については、豚肉等の国産単価が上昇した一方、野菜の国産単価が増収により下落し、サンマ・サバ等の魚介類が不漁となった等により、前年度並みの66%となりました。

○直近10年の食料自給率の動向

年度	平成22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元（概算）
カロリーベース(%)	39	39	39	39	39	39	38	38	37	38
生産額ベース(%)	70	67	68	66	64	66	68	66	66	66

○食料自給力指標

令和元年度の食料自給力指標は、米・小麦中心の作付けについては農地面積が減少したものの、小麦の平年単収や魚介類の漁獲可能量（TAC）の増加により、前年度を27kcal/人・日上回る、1,754kcal/人・日となりました。

いも類中心の作付けについては、農地面積の減少や労働力（延べ労働時間）の減少により、前年度を9kcal/人・日下回る、2,537kcal/人・日となりました。

この結果、いも類中心の作付けでは、推定エネルギー必要量（2,168kcal）を上回るものの、米・小麦中心の作付けではこれを下回ります。

注：推定エネルギー必要量＝そのときの体重を保つ（増加も減少もしない）ために
　適当なエネルギーの推定値

詳細は以下のURLをご確認ください。
https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/200805.html

【お問合せ先】 近畿農政局 企画調整室 075-414-9037

植物検疫が切手のデザインに！

～国際植物防疫年2020を記念した切手が10月5日に発行～

2020年が「国際植物防疫年2020」であることを記念して、10月5日、日本郵便株式会社より、記念切手が発行されます。

海外旅行者が植物検疫を受ける一連の流れを表現することで、個人で消費するものや、少量のおみやげでも、検査が必要なことを分かりやすく伝えます。

郵便切手のデザインについて

本切手では、親しみやすいデザインにより、海外旅行者が果物やお花などの植物を日本に持ち込む際の空港での検疫の様子から、家庭に届くまでの流れがシート全体に表現されています。

詳細は下記のURLをご覧ください。
https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/keneki/200805.html

【お問合せ先】
消費・安全局植物防疫課国際室
代表：03-3502-8111（内線4561）/ダイヤルイン：03-3502-5976

令和2年秋の農作業安全確認運動

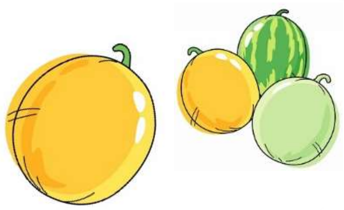
農林水産省では、毎年約300件発生している農作業死亡事故を減少させるため、9月から10月までを農作業安全対策の重点期間として、「令和2年秋の農作業安全確認運動」を実施します。今年の重点推進テーマは「見直そう！農業機械作業の安全対策」です。

乗用型の農業機械作業におけるシートベルト・ヘルメットの着用等、農業機械作業の安全対策に取り組みましょう。

詳細は下記のURLをご覧ください。
https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/

【お問合せ先】近畿農政局　生産部　生産技術環境課　075-414-9722

現場だより



日本一のまくわうり産地をつくりたい！
上田 潤さん（亀岡市）

地元の亀岡市に「まくわうり」の一大産地をつくりたい。その夢の実現に向かって日々奮闘されている上田潤さんに、産地化への想いや将来の展望などについて、お話を伺いました。

★ 上田 潤さんのご紹介

上田さんは、20代の時に地元である亀岡市の農業法人に就職し、本格的に農業を始められました。

平成29年に独立されてからは、主にまくわうり、かぶ、とうがらし、軟弱野菜等を栽培し、野菜作を中心とした経営をされています。

栽培した作物の販路や物流は、自らが積極的に開拓し、大手スーパー各店舗の産直コーナーなどで販売されています。

★ まくわうりの産地化を志したきっかけは？

独立当初から、大きな産地が形成されていない作物として「まくわうり」に着目。試しに栽培して販売したところ、売れ行きが好調だったことで、潜在的なニーズがあることを確信。

周りを見渡しても産地はほとんどない。じゃあ、自分が更に規模を拡大するとともに、同じ志を持つ仲間がもう少し増えれば、地元亀岡市に一大産地をつくれるのではないか。

そんな想いが沸き立ち、産地化を目指されたとのことです。

★ これからの展望

産地化に向けて、育てたまくわうりを「Yellow ダイヤモンド まくわ」と命名。今後、ブランド化の取組を展開されていくとのことです。

また、今年からは仲間が１人加わり、栽培面積は１haとなりましたが、当面の目標は面積を４haまで拡大したいとのこと。

まずは、２人で確かな品質を保ちながら、しっかり販路を構築することで、後に続く仲間が参入しやすい環境をつくりたい。そして将来的には日本一の規模になる産地にしたい、と力強く語って下さいました。

新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします

厚生労働省が開発を進めていた新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)がリリースされました。

利用者が新型コロナウイルス感染症の陽性者と接触した可能性がある場合に通知を受けることができます。

詳細については、以下のURLをご覧ください。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html

お問合せ先:近畿農政局京都支局
〒602-8054 京都市上京区西洞院通下長者町下る丁子風呂町
TEL:075-414-9015 FAX:075-414-9057
ホームページ:https://www.maff.go.jp/kinki/tiiki/kyoto/index.html